

# KTSM 沖縄実技セミナー

日程:平成 26 年 7 月 26 日

場所:那覇医師会那覇看護専門学校

今回、那覇医師会那覇看護専門学校にて、第 6 回沖縄実技セミナーを開催致しました。本セミナーは、口腔ケア、スクリーニング評価、食事介助についての基礎を学び、各々のスキルアップにつなげられるよう企画致しました。以下に、概要を報告致します。

## 実技セミナー 講師・アドバイザー一覧

<敬称略・五十音順>

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
小山 珠美	三思会 摂食嚥下サポート担当	看護師(日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)
安西 秀聡	社会医療法人社団三思会	医師(日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)
赤嶺 幸乃	友愛会 豊見城中央病院	看護師
橋 真人	友愛会 豊見城中央病院	看護師
大城 清貴	友愛会 豊見城中央病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師
加藤 節子	医療法人光風会 北山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師
近藤 奈美	みなと医療生活協同組合 協立総合病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師
嶋津 さゆい	社会医療法人社団熊本丸田会	管理栄養士
竹市 美加	日本赤十字広島看護大学 認定教育課程 非常勤講師	摂食・嚥下障害看護認定看護師
谷 恭子	谷歯科医院	歯科衛生士

統括アドバイザー:吉田 貞夫

施設総括者:志喜屋 亮子

主催:NPO 法人 口から食べる幸せを守る会

共催:株式会社大塚製薬工場

後援:社会医療法人 友愛会 豊見城中央病院

株式会社クリニコ

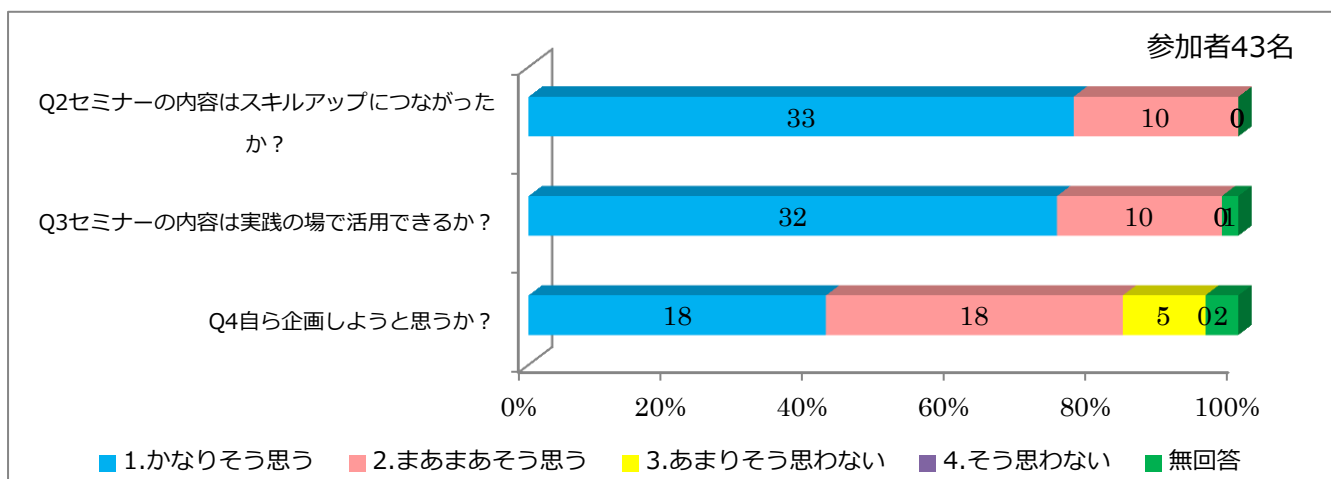
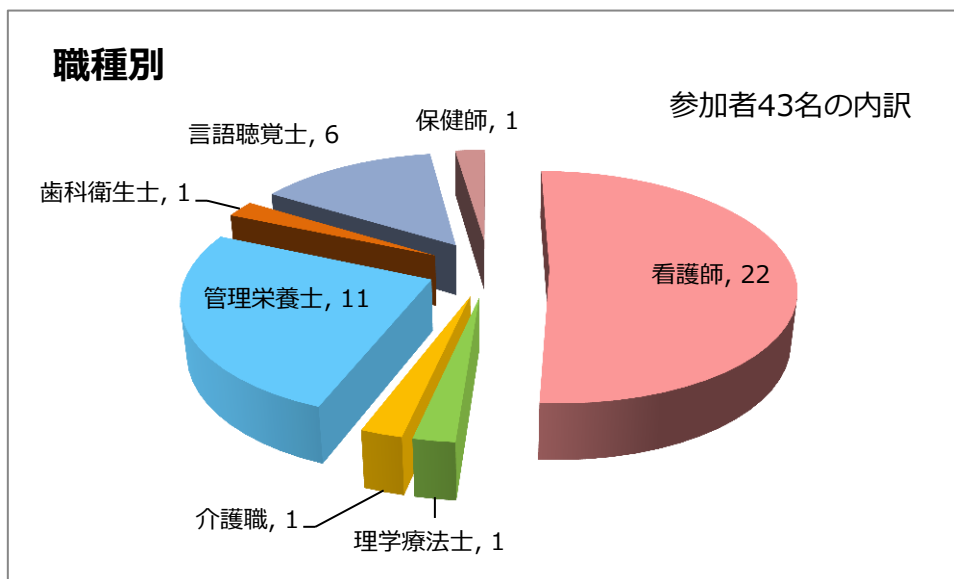
マルハニチロ(株)九州支社沖縄営業所

日清オイリオグループ株式会社

テルモ株式会社

ラックヘルスケア株式会社

# 参加者によるアンケート結果



## <Q2 スキルアップについての感想>

\* 介助側、患者側両方体験することにより両者の気持ちが変わった。介助の時に困ること、患者役でこうして欲しいということが明確にわかった。また、他施設との交流も持って違った視点からみることができた／看護師

\* 立ち位置や評価の仕方等において、客観的にご指導頂き、自分のやり方について、改善がみられたなど、良い勉強になりました／理学療法士

## <Q3 今後の実践に関する感想>

\* 視線誘導が大切な事がよくわかった。また、スプーンを口に入れる角度、引く角度、細かい1つ1つの動作が重要なことを実感できた。実際の評価、食事評価の場面で活用できると思う／言語聴覚士

\* なぜ絶飲食なのか、経口摂取できるには考えられるようにスキルアップしたい／看護師

## <Q4 今後のセミナーで取り上げて欲しい内容>

\* 拒否の強い方など介助が困難な方への援助方法

\* 体動が激しく体幹が安定しない方や嚥下失行がある方のアプローチ

\* 認知症の方の嚥下障害 ・精神疾患の嚥下障害

# 琉球新報に掲載されました！



## 「口から食事」大切 介助法でNPOセミナー

患者が口から食べられるようにするケア方法を獲得するためのセミナーが26日、豊見城市渡橋名の那覇看護専門学校で行われた。NPO法人「口から食べる幸せを守る会」(小山珠美理事長)が主催し、看護師や管理栄養士などの医療従事者約40人が実践的なケア方法を学んだ。同日、小山理事長らが講演するシンポジウムも開催され、医療従事者約150人が参加した。(1日付生活面でシンポジウム詳報)

小山理事長はいまだに多くの急性期病院で誤嚥性肺炎などを恐れて、根拠なく非経口栄養が選択されていると指摘。また医療側の技術不足で患者の摂食嚥下機能が悪化することも多いとして、「自分の技術で患者



が口から食事できるかどうかが決まるかもしれないという考え方をしてほしい」と強調した。

参加者らは介助役と患者役に分かれて、専門の看護師らから指導を受けた。食べる機能を回復するための適切な口腔ケアや摂食嚥下機能の評価方法、食事介助方法などを学んだ。

参加した浦添総合病院の歯科衛生士、平良浩代さん(47)は「病院で口腔ケアや食事補助を指導する立場なので、人に伝えるに当たってのヒントになればと思います。指導されたことで、普段していることの見直しができた」と話した。



細やかな指導を受けながら食事介助を実践する参加者ら。26日、豊見城市渡橋名の那覇看護専門学校



参加者の皆さま、関係者の皆さまありがとうございました。

KTSM 一同